

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

季刊 みる・きく・ふれる 文化財

おうみ文化財通信

Information of Cultural Heritage in OHMI

vol. 47

2021 Spring

- 【調査速報】 古代の東海道を発見!!—栗東市高野遺跡—
- 【お知らせ】 滋賀県立琵琶湖文化館 祝!! 満60歳
- 【展示案内】 春季特別展「びわ湖と城—信長・秀吉・家康の湖上支配—」
- 【募集案内】 受講生大募集 発掘された近江の歴史最前線 2021



【調査速報】

古代の東海道を発見!!

栗東市 高野遺跡 —六地蔵地区ほ場整備工事に伴う発掘調査—



見つかった古代東海道（東から：黄色の範囲は溝跡の延長部分）

（写真：滋賀県 提供）

高野遺跡は、旧野洲川が形成した扇状地の扇頂部に位置し、約1km四方の範囲にわたって広がっています。昭和57年（1982年）に宅地造成に伴う調査が実施されて以来、複数次におよぶ発掘調査が行われてきました。その結果、縄文時代前期から近代に至る遺構・遺物が発見され、特に古墳時代前期を中心とした県内でも有数の大規模集落が形成されていたことが明らかになっています。

歴史地理学の研究成果などから、この遺跡の南端部にあたる六地蔵地区に、古代の東海道が横断していたと推定されていました。そのルートは六地蔵地区を南に迂回する

近世の東海道と異なり、栗東市伊勢落から同市手原の間を直線的に結んでいます（次のページの地図）。令和2年度の調査対象地は、この推定地を含んでいました。

調査では、古墳時代前期・同後期の竪穴建物跡をはじめ、奈良時代から平安時代にかけての推定東海道や平安時代の旧河道跡などが見つかり、それらに伴って多様な遺物が出土しました。なかでも、従来歴史地理学の研究から推定されていた地点に古代の東海道が見つかり、ルートが特定されたことが大きな成果となりました。

【詳しくは次のページ】

栗東市 高野遺跡 —古墳時代の竪穴建物跡も発見—

●「古代東海道」の痕跡

歴史地理学の研究成果から想定されていた古代東海道推定位置において、東西方向に平行して延びる2条の溝跡を検出しました。これらは道路の側溝跡と考えられます。規模はいずれも幅約1m、深さ20～50cmで、各溝跡の中心間の距離は約16mを測ります。北側の側溝跡は長さ約20m分と約10m分が50mほど離れた位置で見つかり、南側の側溝跡は長さ約50m分が見つかりました。断続的ではあるものの、約100mの区間で確認できました。

溝跡からは、須恵器・土師器・瓦などが出土しました。土器には8世紀第4四半期から9世紀初頭に用いられたものがあることから、溝が機能していたのは平安時代初頭までと考えられます。したがって、平安時代初頭までは東海道がこの場所を通過していたことがわかりました。

なお、令和元年度の発掘調査では、今回見つかった溝跡から約270m西側の位置で、南側の溝跡の延長となる部分が見つっています。

●その他の遺構

道の北側で、旧河道跡が見つかりました。この旧河道跡からは、古墳時代から平安時代初頭にかけての幅広い時期の遺物（須恵器・土師器・瓦・砥石など）が出土しました。出土量は西側で多く、不良品のような奈良時代の土器も見られることから、付近に物資の集積場が存在した可能性があります。令和元年度の調査では、道に近接した位置で奈良時代末の倉庫とみられる掘立柱建物を確認しています。

また、古墳時代の竪穴建物跡7棟（前期2棟、後期5棟）も検出しました。平面形は方形で、規模は一辺4m前後のものが多いのですが、一辺6m前後のものが1棟ありました。

●まとめ

古代東海道の推定位置において、道の側溝と考えられる溝跡を発見し、歴史地理学での想定を実証することができました。溝跡で出土した遺物の年代から、平安時代初頭には東海道が当該地を通過していたと考えられます。

当地域は野洲川や葉山川に挟まれており、近代まで両河川の氾濫による水害が起きていました。色濃く残る条里景観にも乱れたところがあり、水害の影響があったことをうかがうことができます。そのような水害の影響によって、東海道は高く安定した場所を通る近世東海道の位置に移転した可能性も考えられます。

今回の調査では、平安時代初頭における東海道のありようを考えるうえで、貴重な成果を得ることができました。



古代東海道（西から：人が立っているところが路面）



旧河道（西から）



古墳時代前期の竪穴建物跡



調査地と東海道



(写真：滋賀県 提供)



R2 説明資料



R1 説明会資料



通信 Vol.44

【お知らせ】

滋賀県立琵琶湖文化館 祝!! 満60歳



滋賀県立琵琶湖文化館が昭和36年(1961年)3月20日に竣工・開館してから、満60歳を迎えました。開館当時、おおつしかみへいぞうちよう 大津市上平蔵町(現: うちではま 大津市打出浜)の湖畔に建てられた鉄筋コンクリート造りの和城連閣様式の建物には、展望閣・水族館・博物館・美術館・文化財受託庫・集会室・レストラン・室内プールがあり、屋外には熱帯植物園や子ども向け遊具があるなど、総合レジャー施設としてにぎわいました。

当館の事業の要であったのが、前身である滋賀県立産業文化館の機能を引き継いだ文化財の公開と保護に努める博物部門、水族部門からなる展覧会事業です。「近江の襷絵展」を皮切りに、平成20年(2008年)に休館するまで開催された特別展・企画展・特別陳列などの自主企画展覧

会は236回を数え、そのほかのテーマ展示や館藏品展は優に100回を超えています。

休館となってからは、館内での文化財公開や講座等ではできなくなったものの、それ以外の博物館活動は継続して行っています。近年特に注力しているのが、琵琶湖文化館の収蔵品を中心に、県内の地域と連携し他館で展示公開をおこなう「地域連携企画展」です。琵琶湖文化館の半世紀以上にわたる活動の中で収集・保管された収蔵品を中心に、各地域にゆかりのある作品を展示公開しています。令和3年度は、秋と冬に県内2つの地域で開催を予定しています。

当館は還暦を迎え、新たな文化館へリスタート(再始動)します。皆様のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



昭和40年代

滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL. 077-522-8179 FAX. 077-522-9634
E-mail: biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp
URL: <http://www.biwakobunkakan.jp/>



文化館 HP

募集中



琵琶湖文化館では、開館当時(昭和36~40年代)のカラー写真を探しています。「トンボのお城」と呼ばれる所以でもある、屋上に設置された大トンボが金色に輝いていた頃の写真です。皆さんの思い出とともに情報をお寄せください。



【展示案内】滋賀県立安土城考古博物館 春季特別展

「びわ湖と城ー信長・秀吉・家康の湖上支配ー」

琵琶湖を抜きにして、近江の歴史は語れません。城もしかり。湖上や湖辺に築かれた水城は、他所ではあまり見られない特徴で、琵琶湖をめぐる水運や流通・経済とその掌握に、密接につながっています。信長・秀吉・家康の天下人は、水城を築くことで湖上勢力や水運を、どのように支配しようとしたのでしょうか。その際に水城は、どのような役割を果たしたのでしょうか。

水城が築かれる歴史的な背景や、琵琶湖の水運をめぐる権力者の戦略と変化を、残された資料から読み解きます。

【開催期間】令和3年4月24日(土)~6月6日(日)

【開館時間】午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】5月6日(木)・10日(月)・17日(月)・24日(月)・31日(月)

【入館料】大人900円(690円)・高大生640円(470円)・

小中生420円(310円)・県内高齢者460円(350円)

※()は20人以上の団体料金。

※「信長の館」との共通券もあります。

やむをえず、会期を変更する場合がございます。最新情報は当館ホームページでご確認下さい。



豊臣秀吉画像(大阪城天守閣蔵)



滋賀県指定文化財 豊臣秀吉朱印状(草津市観音寺蔵)



近江名所図(滋賀県立琵琶湖博物館蔵)

滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678
TEL. 0748-46-2424 FAX. 0748-46-6140
URL: <http://www.azuchi-museum.or.jp/>



博物館 HP

【受講生大募集】 新型コロナウイルス感染拡大防止対策で、オンライン受講も併用になりました！

連続講座 文化財もの知り学 発掘された近江の歴史最前線 2021

文化財の専門職員が、最新の成果を分かりやすくお伝えします。

今年は新型コロナウイルス感染防止対策として、本会場受講者の定員を減らしますが、代わりにインターネット・Zoom を活用して同時中継を行い、滋賀県立安土城考古博物館での第2会場やご自宅でオンライン受講もできるようにします。

会場や受講の仕方によって受講料が異なりますので、下記の表をご参照ください。(支払い後のキャンセルは不可とさせていただきます)

- 主催 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
- 開催時間 各回・各会場とも 10:30～12:00
- 申込方法 **A会場・B会場での受講をご希望の場合**
電話でご希望の会場をお申し込みください。
希望者多数の場合は【抽選】となります。
携帯電話等の連絡先もお伝えください。
- C会場(ご自宅)での受講をご希望の場合**
こちらのメールアドレスへお申し込み下さい。
shop@shiga-bunkazai.jp
件名は「連続講座申込C会場希望」としてください。
お名前・ご住所・携帯電話等の番号をご明記下さい。
- 申込期限等 申込期限 令和3年5月21日(金) 17:15まで
抽選結果 令和3年5月末までに連絡いたします。
- 申し込み・問い合わせ先 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
077-5448-9780 (平日8:30～17:15)
- 詳しくは 当協会ホームページ <http://shiga-bunkazai.jp/>

●魅惑のラインナップ(全7回)

- 第1回 6月12日(土)
道の国近江 古代東海道を掘る
当協会調査員 福井知樹
- 第2回 7月10日(土)
野洲川左岸の開発と渡来人集落
当協会調査員 重田 勉
- 第3回 8月21日(土)
内湖の縄文人のくらし
当協会調査員 小島孝修
- 第4回 9月11日(土)
琵琶湖縄文人の食生活を解き明かす
当協会調査員 佐藤巧庸
- 第5回 10月16日(土)
縄文人のサバイバル戦略を読み解く
当協会調査員 瀬口眞司
- 第6回 11月13日(土)
縄文人から弥生人へ
安土城考古博物館学芸員 福西貴彦
- 第7回 12月11日(土)
縄文人の楽園 まいばら(仮)
滋賀県米原市教育委員会 高橋順之氏

●受講の方法と会場	対面式による 本会場での受講		本会場からの同時中継による オンライン会場での受講	
	A会場 県埋蔵文化財センター	B会場 安土城考古博物館	C会場 ご自宅 (Zoom使用)	
●定員	18名	50名	定員なし	
●受講料	全7回分 一括払い 7,000円		全7回分 一括払い 5,000円	
●資料配布	当日会場で配布	当日会場で配布	当日までに郵送で配布	

《寄付金の募集について》

当協会が滋賀県の文化財の保存と調査、普及啓発を担う公益財団法人として、主に発掘調査の成果やそれに基づく研究成果を広く、かつ積極的に情報公開を行う努めがあります。

そのため、皆さまにご支援を賜り、広く文化財情報の還元ができるよう活用させていただく寄付金の募集を計画しております。

詳細については、当協会のホームページ等でお知らせしますので、よろしくお願いたします。



協会HP